

UNU Global Seminar Third Shimane-Yamaguchi Session
「健康と文明」 (抄録)

世界保健機関西太平洋地域事務局長
尾 身 茂

数年前 SARS (Severe Acute Respiratory Syndrome ; 重症急性呼吸器症候群) の流行があり、現在、鳥インフルエンザの発生が続き、ヒトにおける感染の拡大が懸念されている。こうした流行の発生は単なる偶然にすぎないのだろうか。

主要な疾患の発生が文明の発展と関係があることをこれまでに専門家は指摘している。歴史上、異なった感染症の大流行の波があった、第一は、文明史前、人類が狩猟生活から、農耕を中心として定住し始めた時期であり、第二は、約 2,500 年前から 700 年前の間に文明同士の交流が活発となった時期であり、第三は、16~18 世紀頃の、大航海時代に端を発し、大陸を越えて人々の移動が始まった時期である。文明は疾患の流行を引きおこし、文明自体を破壊することもあった。

今日の文明社会は、グローバル化、都市化、商業主義、科学技術の普及といった特徴を有する。こうした文明の特徴は、人類の健康に影響を及ぼし、結果として健康問題を引き起こし。例えば、新興・再興感染症の出現、生活習慣病や精神疾患の深刻化、医療の安全・質に関連した問題として人類が直面することとなっている。そして、こうした健康に関連した問題が、翻って文明に影響を及ぼすことになるのである。

文明は発展するものであり、逆行することができないものと思われている。しかしながら、私たちは、文明の持つポジティブなインパクトを保持しつつ、負のインパクトを軽減することができるのであり、またすべきなのである。文明によってもたらされた健康問題に取り組むには次のようないくつかの行動が必要である。

- ・ 人類と他の種の住み分け
- ・ 国際間の連携強化
- ・ 個人の権利と公益のバランス
- ・ 高齢者、学者、NGO、企業、公的機関等の代表からなる Common Forum の形成
- ・ 新たな課題に対応できる能力の開発 (知識・スキル・知恵)
- ・ 全体に流されず、必要とあらば既存のものも捨てられる倫理・使命感の確立

さらには、私たちの考えや行動をも変える必要がある。狭い視野や断片的な考え方を捨て去り、人を中心とした社会を築いていくことが重要である。